

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	生活環境部クリーン推進課		■担当係	ごみ減量係
■評価事業名称	資源ごみリサイクル事業			
■評価事業コード	030300 - 066	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	04 美しい環境と心を守り育てるまちづくり		
	■基本施策	02 資源循環型社会の形成		
	■施策	03 リサイクルの推進		
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律			
■関連計画の名称	北上市環境基本計画、北上市ゴミ処理基本計画			
■事業の概要	住民のリサイクル意識の高揚。可燃・不燃ごみの減量。職員による委託業者との連絡調整、収集の広報、分別の啓発。委託業者は、資源ごみステーションを収集車で巡回し、種別ごとに収集する。収集したごみは委託している民間の中間処理施設へ運搬する。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成26年度事業計画	平成26年度事業量実績
01	資源ごみ収集運搬	市民	資源ごみステーション数 383箇所資源ごみ量:4,722t(第7期分別収集計画より。)	資源ごみステーション数 383箇所 資源ごみ量:3,836.6t 新聞・雑誌の落ち込み多
02	資源ゴミ加工保管	市民	資源ごみステーション数 383箇所加工保管量:4,722t(第7期分別収集計画より。)	資源ごみステーション数 383箇所加工保管量3836.6t
03	資源ゴミ再商品化	市民	再商品化量:1,600t(びん類排出量横ばいであるため)	資源ごみステーション数 383箇所再資源化量 1,372.74t

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考
直接事業費	101,034	100,546	99,596	108,314	
人件費	3,731	4,013	1,450	921	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	104,765	104,559	101,046	109,235	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

指標コード	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	指標の説明
01	リサイクル率	0.235	0.227	0.214	0.203	ごみ総量に対する資源ごみの量
02	資源ごみの量	4,437	4,263	4,083	3,836	

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

ここ数年でごみ総量は横ばいであるが、資源ごみ自体の量が減少しているため、リサイクル率は低下している。

問題点・課題等

分別がしっかりとされず、可燃ごみの中に資源ごみが含まれたまま排出される傾向が、依然としてみられる。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小・要改善
- IV. 民間活用・協働事業化
- V. 廃止・休止
- VI. 完了

補足説明

分別の周知を徹底し、資源ごみリサイクル率の増加を目指す。